

平成28年度 第1回東広島市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成28年6月2日(木)
開会9時27分 閉会11時00分

2 会 場 東広島市役所本館3階303会議室

3 出席者 (構成員)
東広島市長 藏田 義雄
東広島市教育委員会
教育長 下川 聖二
委 員 織田 壽子
委 員 坂越 正樹
委 員 長嶋 香穂里
委 員 京極 秀樹

(説明のために出席した者)
副市長 榎原 晃二
政策企画部長 西村 克也
こども未来部長 石原 さやか
学校教育部長 大垣 勇人
生涯学習部長 天神山 勝浩
企画課長 神笠 秀治
指導課長 祭田 学
青少年育成課長 池田 隆

(事務局関係)
総務部長 前延 国治
総務部次長兼総務課長 木原 岳浩
総務課 課長補佐兼行政経営係長 大石 美廣
行政経営係 主査 植木 沙美

4 議 事 (1) 東広島市教育大綱に基づく取組み内容について
～基本指針3-2 大学・学生と地域・市民の交流、連携の促進～

5 内 容
○開 会

○藏田市長あいさつ

○議 事

(1) 東広島市教育大綱に基づく取組み内容について

<藏田市長>

昨年度は、総合教育会議立上げの年ということで、本市の教育行政を推進するための基本指針となる「東広島市教育大綱」を策定するために、様々なご意見を頂戴し、11月に大綱を策定いたしました。

今年度は、この大綱の下、市・教育委員会それぞれの事務事業をスタートさせたところでございます。

こうした中で、今回からの総合教育会議では、この大綱に定める基本方針のテーマごとに、本市の現状を確認しつつ、互いの意見やアイデアを出し合うことにより、教育施策の方向性や事業方針等について共有してまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは早速ではございますが、会議次第にありますとおり、2の「議事」に入ります。

(1) 東広島市教育大綱に基づく取組み内容についてでございます。

本日は、大綱の中でも特に、「基本指針3 国際学術研究都市として」のうち「大学・学生と地域・市民の交流、連携の促進」にテーマを絞り、中でも大学との連携につきまして意見交換を行い、方向性を共有させていただきたいと思っております。

大学連携は、「第四次総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」におきましても、重要な項目の一つとして位置付けております。

4つの大学が立地しているという特性を活かしながら、産業、福祉、そして教育とあらゆる分野において大学との連携を強化するべく、大学機能のさらなる向上への支援をするとともに、地域にひらかれた大学づくりへの働きかけにも力を注いでいるところでございます。

本日は、市から、本市のまちづくりにおける大学連携の位置づけや現状について、再度共通認識を持つという意味で、ご説明いたします。そして、教育委員会からは、具体的な事務事業の事例をご紹介させていただきたいと思っております。

本題に入ります前に、4大学の概要について改めて押さえておきたいと思っておりますので、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明【資料1】)

<藏田市長>

4大学の概要の再確認という意味で、事務局から説明してもらいました。大学連携の背景として、現在の大学の状況を念頭に置いたうえで、本題に入らせていただきたいと思います。

それでは、政策企画部長から、本市の大学連携について説明してもらいます。

(政策企画部長説明【資料2】)

<藏田市長>

ありがとうございました。

各分野におきまして連携をすすめているわけですが、教育委員会でも多くの連携事業をされており、教育委員会から具体的な取組み事例につきまして、ご説明をお願いいたします。

(学校教育部長説明【資料3】)

(生涯学習部長説明【資料4】)

<藏田市長>

ありがとうございました。

四つの大学が立地する「学園都市」としての特性を活かしながら、教育面においても大学との連携を通じた「人づくり」をすることで、本市の魅力をより高めることができるものと思っておりますが、教育環境の充実が図られれば、本市のキャッチフレーズでもある「子育てするなら東広島！」の実現に向けても、大きな力となるものであります。

まずは現状の取組みについての思いや、こうした連携事業をしてはどうか、といったことがあれば、ご意見を伺いたいと思います。

大学マスターズが随分頑張っているけれども、主役の学生をもっと表にだすことも考えてもらいたいと思いますが、下川教育長からご意見をお伺いします。

<下川教育長>

大学・行政・学校等で様々な連携事業を行っておりますが、相互にメリットのあることでなければ長続きしないと思います。4つの大学があるということで、これらの大学との連携ができるということは本市の特色、良さを出せる環境にあると思います。本市の教育レベルを上げていくという意味でも、たいへんありがたい環境だと思います。

先ほど市長も言われたように、学生をもっと地域へ出していく、事業へ引っ張り込んでいくということですが、学校教育の中でも、マイタウンティーチャー等で、学生に学校現場へ出てもらい、子どもと触れ合ったり、指導していただいたりしています。そうは言っても、大学での勉強が本分ですので、こちらの需要に対してすべて応えてもらうのは難しいと思います。しかし、現場での体験が、自分の研究や将来に役に立つということが分かれば、学校等へ出て行こうという気持ちになってくれるのではないかと思います。そうした思いを持っていただけるように、教育委員会としては、情報発信やコーディネートなどをうまくやっていかなければと思います。

<藏田市長>

広島大学とは中心部とのつながりというのもございますが、まだまだ学生が出てきてくれることが少ない。このあたりのことについて、ご要望等も含めて、ございますか。

<坂越委員>

学生をいかに主役として考えていくのかと言うときに、地域に出て行くことで、学生が育っているということは、よく分かっています。学業も大事ですが、これからの社会が求めている力はそれだけではなく、例えばまちづくりと一緒にした、というようなスキルを持っているとか、学校で気になる子どもに指導をしたという経験は、絶対に生きてきます。大学としてもこうした観点を押し出していきたいと考えています。

例えば市役所の北館でされている「市役所朝活」には、いろんな学部の学生が参加して、育っているという話を聞きました。ただどうしても、学生はどんどん入れ替わっていきます。1・2年で活動をしていても、3年になれば就職活動が忙しくなったりします。いかに、次に繋いでいくか、ネットワークを作って新しい学生に繋いでいくということを、大学と行政が一緒になってやれば、もっと具体的な形が見えてくるのではないかと思います。

<藏田市長>

学生をどう繋ぐのがよいのかということですが。例えば先輩について行ったら、多少お金になるよとか、おいしいものが食べられるよ、というようなこともある程度は必要かと思えます。

長嶋委員いかがですか。

<長嶋委員>

総合戦略の17ページの学生の地域活動の促進というところを見ていますと、学生さんに地域のお祭りなどに参加いただいて、学生の感性で意見を頂くことができれば、地域活性化に繋がるのではと感じました。うまくコーディネートできればいいのではないのでしょうか。

<藏田市長>

どうやって双方を繋いでいくのかということだと思いますが、行政としても、興味を持ってもらう、魅力を感じてもらいたいということも必要ではないかと思います。どのように発信していくのがいいのかというところは、考えるところであります。

近畿大学の学生はあまり高屋から出ないですね。街中に出ていただきたいけれども、それじゃあどうやって出て行くのか、何があるのか、と言われると、私どもも考えてしまいます。しかし逆に、東広島市にもいろいろな企業や人がたくさん出入りしているということを見て感じていただきたいということもあります。東広島市そのものの魅力の出し方が足りないのかとも思いますが、京極先生からご覧になられていかがですか。

<京極委員>

学生を引き出すところが足りないというのは感じていますが、学生も意外と忙しくて難しいというところもあります。そうは言っても、最近では建築学科の先生などが中心になって動いていますので、大事なことだと思います。学生が町に出て行ってやるというのと、逆に、小中高校生に来てもらうのもありではないかと思います。教育はどんどんバーチャルになっていて、実体験が少なくなっています。工学部ですので、実体験のできる場を提供できればと思います。こうした機会を増やせば、大学生にも子どもたちにも両方にメリットがあると思います。説明にあった天文台の活動のようなものがとてもいいと思います。

こうしたことをサポートしてもらおうとか、見える形にしてもらえると、もっと交流ができるのではないかと思います。

<藏田市長>

子どもたちは感性がバラバラですが、想像もつかないような感性を持っています。こうしたところをうまく引き出すようなコーディネーターが出来れば。子どもたちにとっては、大学生というよりは、年の近いお兄さん、お姉さんが引っ張ってくれるという感覚になれば、もっとうまくいくのではないかと思います。

<京極委員>

大学でもクラブなどを利用して、学生たちにも協力してもらえるようになればと思います。

<藏田市長>

最近はオリンピック選手も10代が多いですね。この方たちは、小学生のころから高校生や大学生と一緒に練習をしています。先輩と一緒に、そこを目標として練習してきました。こういう場を作ってあげることが必要ですね。

織田先生いかがでしょうか。

<織田委員>

私が現職の頃から大学の先生には講師として来ていただいたり、学校評議員に入っていたり、いろいろな場面でお世話になっていましたが、ほかにもこんなにたくさんの連携事業があるのだなと改めて思いました。今の学校管理職でも、知らない方がいると思うので、このことをしっかり研修すれば、大学との繋がりもよく分かってもらえるのではないかと思います。私は保護司の活動もしていますが、保護司会には大学のサークルなどから来てもらって、更生保護の勉強を一緒にしています。若い学生に子どもたちに関わってもらおうことで、保護対象の子どもが変わってくるということも感じております。未来塾という名前で、貧困家庭への学習支援をしていて、広島大学、近畿大学、広島国際大学からも来ていただきました。若い人に教えてもらうと、子どもたちも元気が出てきます。私たちは指導のやり方や子どもへの関わり方に対してアドバイスしたりする程度です。こうしたことで、学生との繋がりが出来ております。大学のサークルなどを通して学生との繋がりを作ることも出来ると思います。

<藏田市長>

サークルの重要性について言っていました。私たちの世代では分からないこともあります。やはり、私たちの世代、親の世代、先輩が言ったことに対しては、反応がまったく違います。やはり先輩が言ってくれることが、一番子どもたちに効果があるのではないかと思います。こうした学習支援を通して、またスポーツを通して、東広島市全体の子どもたちも素晴らしい教育を受けられるのではないかと思います。教育長いかがですか。

<下川教育長>

やはり学校でも、年の近い教育実習生などが来ると、子どもたちはとても喜ぶと思います。こうした良さをしっかり活かしていくことが大事だろうと思います。スポーツ面でも、クラ

ブ活動やスポーツ少年団などへ大学生に入ってもらって指導してもらっています。このように、勉強だけではなく、スポーツなどにも広げていくことが必要だと思います。学生も忙しいということもありますが、私が高屋西小学校におりました時に、週5日制が始まって、土曜日の子どもの受け皿をどうするかということで、近畿大学の学生に来てもらって、たのしい理科の実験をしたことがあります。教員免許取得を目指す学生が来てくれましたが、大学側がこれを単位として認めてくださいました。こうした大学側としての特典というものがあれば、学生も地域に出やすくなるのではと思います。

<藏田市長>

最近の学生は忙しいですね。

<坂越委員>

そうですね。地域とのパイプを持った学生は、どんどん外へ出て行きますが、そうでない学生が8割方だと思います。この学生たちをどうやって引っ張り出すかということになると思います。こういった活動があるよという展示をしたり、学内で報告会をしたりということを考えていかなければと思います。

<藏田市長>

先日、木下サーカスの方が来られて、広島大学のジャグリング部の話をしました。魅力はどこにあるかわかりませんね。

<坂越委員>

広島大学にはほかにもユニークな、けん玉の世界チャンピオンや、学生漫才のコンクールの優勝者などもあります。

留学生について少しお話しますが、留学生はここで生活をしていますから、いろいろな場面で行政にお世話になっています。留学生が地域へ出ることも進んではいますが、もっと進めたいと思います。

<藏田市長>

留学生は短い期間なので、ここでしっかり学んで吸収してもらいたいと思います。近畿大学の学生を中心部へ出すいい手だてがありませんか。

<京極委員>

出したいとは思っています。酒蔵に交流する場所があると聞いていますので、そういうところへ学生を出すようにしたいと思います。

<藏田市長>

出るのがむずかしければ子ども達に行っていただくということも大きな力になるのでは。例えば、県の高校野球連盟が、一つ上のレベルの大学生と一緒に練習するというのをされています。少し上のレベルのプレイを見るだけでも、ぐっと伸びる。いろんなジャンルで、地元の大学に行って体験できるようなつながりを作ってもらいたいと思います。

<京極委員>

近畿大学でも中学生の野球大会などを行っています。そういう取組みは大事だと思います。

<藏田市長>

取組み、環境、地域づくりということは、いかにコーディネートするか、ということですが。行政が手伝うということも大事ですが、いろいろな意見をお聞きしながら進める必要があるのですが、今後ご協力をお願いしたいと思います。

もう1点、留学生は勉強を本気でやろうという学生が多いから、地域には出にくいのかと思いますが、どうでしょうか。

<坂越委員>

留学生のほとんどは大学院に属しているので、自由な時間はあまりないかもしれないです。ただ、学生自身はどうかというと、せっかく日本に来たのだから地域のことを知りたいと、興味を持っている学生が多いように感じます。

<下川教育長>

学校に来ていただいて、話をしてもらうことがあります。留学生はみなさん喜んで来てくれます。本人が無理なときには、家族が来てくれたりします。学校や地域行事に参加される方もおられます。こうしたことをもっと広げていけばと思います。また、英語の授業に入っていただいて、ネイティブの発音で授業に協力していただくということもやっていて、今後も充実させたいと考えています。

<織田委員>

小学校で英語活動をしていた時に、留学生に学校へ来ていただくのが難しかったので、御菌宇小学校の6年生の児童を広島大学の国際協力研究科へ連れて行って、留学生に話しかけたりして、英語力を試してみる取組みをしたことがあります。ちょっとの時間でも、子どもを連れて行けば、積極的に関わっていただけます。

<藏田市長>

ところで、本市の「いなか」には大きな家がたくさんあります。大学の近くの空き家などに学生や子どもに集まってもらって交流すれば、気楽にできていいのではないかという話をしたことがあります。地域の活性化にもつながるのではと思います。地域に大学の学生に住んでもらえば、たとえば地域の草刈りを手伝うだけでも、交流になります。本市は人口20万という目標を掲げてがんばっておりますが、大学を卒業した方々の定着率がとても低いという現状があります。これを上げるために、学生に地域で生活してもらう昔の下宿のようなものが、地域に大きく貢献できると思います。そこから仕事や企業の話聞いてもらう、というのも一つの方法ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

<坂越委員>

文科省でも、地域の就職率を高めるというようなプログラムがありますが、景気が良くなればなるほど、どうしても外へ行ってしまう傾向があります。大学でも地域とのマッチングを増やそうと努力はしています。

<京極委員>

県内に就職する学生は大体3割くらいです。ほとんどの学生は地元へ帰ることを希望しています。学生は市内の企業のことをあまり知らないで、インターンシップを増やすなどして、情報を増やすことが必要だと思います。地元企業の社長さんなどに話をしてもらうような講義もやってはどうかと考えています。

<藏田市長>

市でも、商工会議所などと一緒になって、マッチングをしたりなどしていますが、まだまだ浸透していないようです。市内には大きな企業だけでなく、小さくてもオンリーワン、ナンバーワンの企業が結構ありますが、ほとんど知られていないのではないのでしょうか。最近の学生はアルバイトもあまりしないから、企業を知る機会もありません。何かとつながりがあれば、と思います。もっと行政側も、良い企業があるということをPRしなければいけないと思います。ただ、こちらがいくら世話をしても、あくまでも主役は学生です。学生に興味を持っていただかないといけないです。例えば酒祭りで学生専用のステージを作って、自由にやってもらうというようなこともあっていいかもしれない。

<坂越委員>

昨年、1年生全員、2500人くらいをみんなインターンシップさせてはという話がありました。何人かをパイロット的に商工会議所や市役所に受け入れていただきました。ここにこんな面白い企業がある、ということを知ってもらえれば、また変わってくるのではないかと思います。

<藏田市長>

いろんなことに取り組みながら、子どもたちに、ここで力をつけてもらいたいと思います。最後に皆さんからひとことずつお願いしたい。

<織田委員>

子育てするなら東広島ということで、何を魅力として親が東広島市に住みたいと思うのか、ということを見ると、やはり学力は魅力として大きいと思います。市外の方と出会うと、東広島市は教育レベルが高いという話をよく伺いますが、課題もまだあるので、まだまだ頑張らなければと思っています。

<京極委員>

生涯教育の話があまりでなかったですが、工学部では地域とのつながりを作るような方策をもっとした方がいいのかなと思っていますが、市の方から大学へもうひと押ししてもらえるといいと思います。お互い遠慮がちなところもあると思います。産業が活性化しなければ人も増えません。これだけ大学があるから、しっかり協力していきたいと思います。

<長嶋委員>

学生が市内にあるオンリーワンの企業を知る機会がないと言われていましたが、学生だけでなく、優れた企業が市内にあることを知らない方が多いと思います。多くの皆さんが市内の企業のことを知ることで、学生さんにより企業に関心を持ってもらうことに繋がっていくと思いました。また、東広島市には海と山と両方あります。海を活かして、学生や子どもたちを取り込める企画があれば、東広島市の海の魅力も伝えられるのではないかと思います。

<坂越委員>

地域と学校の関係というのは、非常に先進的な取組みをしている地域と、子どもが足りなくてできない、という地域とがあります。いろんな地域で話し合いをされていると思いますが、そういう場で逆に、皆さんにこの地域の子どもたちをどう育てますか、というよ

うな話し合いができたらいいと思います。10年20年後のこの地域の子育てがどうなっていくのかということをお話することができれば、将来的に東広島市の教育が良くなっていくのではないのでしょうか。

<藏田市長>

そういうことを考えていかななくてはならない時代にきていると感じます。最後に下川教育長をお願いします。

<下川教育長>

これだけ素晴らしい大学があつて、連携をさせていただいていますが、もっと学校現場に、大学と連携することの良さを情報発信していかなければならないと思います。先般も、天文台の観望会に行ってきましたが、こういった素晴らしい施設があるということ市内の学校に知ってもらって、イベントなどに多くの方に参加してもらいたいと思います。

教育委員会の職員だったものが、昨日から下見に「おるおるカフェ」というのをオープンさせました。地域と学生を繋ぐ場をどうしても作りたいということで、広島大学の学生と一緒に運営しています。こうした情報も学校現場は知らないと思います。いろんな場所をうまく活用して、学校現場だけでなく生涯学習の場面でもいろんな団体と繋げていくことを、行政、教育委員会として支援しなければならないと思っています。

<藏田市長>

東広島市の大きな方向性を示さなければならないことの一つに、知的資源をもっと活かしたまちづくりを進めていくことを考えています。本日いただいたご意見をもとに、どう進めるかということ、関係者の意見も取りまとめて進めてまいりたいと思っていますので、またご助言をお願いいたします。

本日はお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。

○閉 会